17.　あまりの揺れ方に死ぬかと思いました

T. K. 30代　医療従事者　浦安市北栄在住

- どこに誰といましたか。

  台東区の13階建ビル2階の治療室で、マッサージをしていました。女性の患者さんと2人きりでした。最初は大した揺れでないと思っていましたが、そのうち揺れが大きくなり、死ぬかと思ったほどです。

- そのときとった行動は？

  治療を打ち切り、患者さんは自転車で自宅へ帰ったと思います。私は入口のドアを開け、ずっとそこで立っていました。10分後くらいに、階下から院長（男性）が「大丈夫か」と見に来てくれました。私はワンセグを持っていたので、ニュースを見ることができました。15時ころから、つぎの患者さんが来たのでいつも通り治療をしました。この人は、用事で出かけた上野から2キロほど歩いてきて、帰りは森下の自宅まで歩いて帰ったと思います。その後の患者さんは全部キャンセルとなりました。地震の日の後は、家や会社を出られないからというキャンセルが相次ぎました。

- 自宅にはどのように帰りましたか。

  21時過ぎに、院長の車で送ってもらうことになり、同じ方向の人と乗りました。ところが道路は渋滞で、江戸川区に入ったところで方向が違うので車を降り、徒歩で浦安の自宅まで帰りました。家に着いたのは13日の2時でした。

- 自宅の被害はありましたか。

  自宅は、9 階建マンションの 1 階です。浦安市といっても埋立地ではない所なので、何も被害はありませんでした。ただ、埋立地の液状化の影響で、断水が長く続き大変困りました。

- 最後にひとこと。

  日ごろの備え、とくに懐中電灯や水などはあらかじめ準備しておくことが必要です。

2011年7月6日